

# TUST



2007 TUSTニュースレター リニューアル 第19号

トピックス 新学部「医療科学部」スタート

 帝京科学大学

## 思い悩む前に行動することが大事



学長 沖永 莊八

新しく帝京科学大学に来られた皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの中には、すでに大学で学びたいことが心の中で決まっている方もいれば、これからそれを見つけ出そうとしている方もいるでしょう。そして何かを学ぶにあたって重要なのは、その分野への興味と関心だと考えている方は多いことかと思えます。しかし、興味とは無条件に与えられているものではなく、また興味が先にあって理解や課題遂行が後づけされるという順序が必ずしもとられるわけではありません。むしろ、理解や遂行の実践の中から、おのずからその課題に対する関心が高まっていくという方向もあります。

むしろ関心と理解とは、どちらかが他方の前提となるのではなく、相互にもとづきあう関係にあると言ったほうが正しいでしょう。自分が興味を持てる学問分野、自分に合った資格や技術などは、最初の興味や第一印象だけではなく、最初はつまらなく思えたものでも、実践していく中から見出してゆける場合も多いのです。その意味では、大学では与えられたことに対してできるだけ先入観なく、また自分を決めつけず取り組んでみてください。また、助言教員をはじめとする先生方、事務員の方々には些細と思われることでも積極的に相談してください。思い悩む前に行動することが大事です。

充実した大学生活を送られることを期待しています。

## 大学生としての第一歩を踏み出す。



### 入学式・オリエンテーション

今年、本学は553名の新入生を迎えました。入学式は帝京大学グループ校と合同で平成19年4月4日の午後から武道館で厳かな雰囲気の中なかで執り行われました。鼓笛隊が先導する校旗入場で始まった式典は、華やかなチアリーディングによる新入生歓迎の演技で幕を閉じました。閉式後、都心は雪混じりの雨になる春の嵐の一日となりました。

翌日は上野原で歓迎式が行なわれました。会場の体育館に向かう緊張の面持ちの新入生に対して、入口でクラブに勧誘する上級生には後輩をいたわる先輩としての余裕も感じられました。歓迎式を終えた新入生を次に待っているのは、翌週から始まる授業のオリエンテーションと助言教員との対面式です。助言教員制度は、学生を少人数のグループに分け、一人の教員が3年生まで履修の仕方や生活の相談など幅広い支援を行う仕組みです。小さなグループになることで新入生同士が早く友達になれるようにという狙いもあります。こうして入学式後の数日間、新入生は休む間もなく、在校生と教職員から声をかけられ、初対面の友達とぎこちない挨拶を交わす忙しい毎日が続きます。そして、少しずつ小さな大学ならではの家庭的な雰囲気に溶け込み、大学生としての第一歩を踏み出して行きます。大学にとっても新入生を迎える4月は、一瞬しか見られない満開の桜の花のように、得がたい貴重な時間です。

# 新任教員の紹介

## 《医療科学部》



**平林 茂**  
医療科学部長兼リハビリテーション学科長・教授／医学博士・医師  
前職：埼玉医科大学総合医療センター整形外科助教授  
首から腰までの背骨とそれに関連する神経の病変、特に、椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症など加齢に伴って生じやすい病変を専門にしている整形外科医です。日本整形外科学会専門医、日本脊椎椎間病学会指導医などの資格があります。「最善を尽くした後、その結果を省みる」がモットーです。



**高橋 高治**  
リハビリテーション(理学療法学専攻)科長・教授／理学療法士  
前職：埼玉医科大学短期大学理学療法科教授  
専門分野は補装具学と小児発達障害の理学療法です。補装具学とは、補具と装具をあわせた用語で、補具は四肢の切断後に義手や義足などの切断肢に変わるものを指します。装具は、四肢体幹の麻痺や関節障害を装着して支える道具です。特に理学療法に関連した切断直後の仮義足の開発を研究テーマとしています。



**鈴木 幹夫**  
リハビリテーション学科・教授／医学博士・医師  
前職：財団法人神経研究所昭和病院リハビリテーション医長  
時間と同じように、我々は、心とは何かを十分知っているはずですが、言葉で説明しようとするとよく解らなくなります。さらに、心の健康・不健康を考える時、心が自らをみつめても、その当の心自身の不健康さには気づきにくいものです。それは、眼は、自らを直接視ることができず、おのれを視るためには鏡を要するようになります。そんな心について考えるのが精神医学です。



**藤井 靖久**  
リハビリテーション学科・教授／医学博士  
前職：山梨大学医学部講師  
赤芽球が脱核して赤血球になるまでの形態変化を顕微鏡を用いて検索し学位を取得しました。その後は、急速凍結法を用いて細胞・組織の活動している瞬間の形態・物質の分布等を水中に閉じ込め光学および電子顕微鏡を用いて解析しています。



**萩原 宏毅**  
リハビリテーション学科・教授／医学博士・医師  
前職：川崎医科大学神経内科講師  
内科学、神経内科学等、主に専門課程の臨床講義を担当いたします。私自身現役の臨床医で、帝京大学附属病院で診療も行っております。専門は神経内科です。講義では、学生さんが今後プロフェッショナルとして活躍していくために核となる知識をしっかりと伝えられるよう努力いたします。また現役の臨床医である強みを生かして、病気の新しい概念や治療法など生きた情報も積極的に紹介していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



**中山 彰博**  
リハビリテーション学科・准教授／理学療法士  
前職：高崎医療技術福祉専門学校理学療法学科長  
理学療法を用い、高齢者の機能低下予防や治療に長年たずさわってきました。呼吸器や循環器疾患、関節痛への対策を得意としています。近年は、年齢を問わず腰痛や頸・肩の痛みに対し自己治療方法や予防方法に付き指導しています。



**桐山 希一**  
リハビリテーション学科・講師／教育学博士・理学療法士  
前職：医療法人札幌山の上病院リハビリテーション医療研究室長  
私は、昨年まで札幌の神経内科の専門病院に理学療法士として勤務していました。臨床では、おもに脳卒中やパーキンソン病の患者さんの治療を行いつつ、歩行時の足への圧力について研究も続けてきました。また、今後は身体を動かすための神経の働きについて、リハビリテーションの視点から研究を続けていきます。



**浅利 和人**  
リハビリテーション学科・助教／理学療法士  
前職：関東リハビリテーション専門学校  
理学療法士としての活動は、主に地域社会で生活する障害者や高齢者を支援するリハビリテーションを実践しています。具体的には介護予防、訪問リハビリテーション、住宅環境整備が専門です。また理学療法士に関する教育カリキュラムの研究開発も行っています。

## 《生命環境学部》



**廣瀬 昇**  
リハビリテーション学科・助教／理学療法士  
前職：東京女子医科大学病院リハビリテーション部  
専門は運動生理、運動療法(理学療法における身体姿勢制御)。前職では理学療法士として、整形外科疾患・内部疾患を中心とした急性期理学療法に従事しておりました。現在、研究テーマは体力科学分野から低体力者の運動耐容性と身体活動について追求しています。



**石田 峻**  
アニマルサイエンス学科・教授／文学士  
前職：東京動物園協会多摩動物公園副園長 兼 教育普及課長  
専門分野：動物観と動物園動物園学とは、およそ動物園にかかる問題全てを扱い、これらを体系的に研究することです。飼育下の動物行動なども含まれます。動物観は、人がどのように動物を考え、行動するかなどを分析することを通じて、人間の動物観を明らかにしようとするもので、特に現代日本人の動物観を、歴史と西欧を中心とする諸外国、諸文化との比較することにより、研究してきました。どちらも、あまり他の研究者が追求してこなかった分野です。こちらに来るまでは、30年ほど東京の4つの動物園・水族館に勤務していました。



**前田 康行**  
バイオサイエンス学科・准教授／医学博士・獣医師  
前職：JT医薬総合研究所安全性研究所  
これまで民間企業において病気の治療の手段という観点から医薬品の研究開発を行っていましたが、同時に継続してきた大学医学部での腸管免疫に関する研究を通して、最近では健康の増進ないしは予防の大切さを実感しています。これから免疫学を中心に据えて健康にかかわる研究を行っていきます。



**篠原 正典**  
環境科学科・講師／理学博士  
前職：(財)環境科学技術研究所環境シミュレーション部 研究員(ミニ地球実験居住者)  
動物行動学を専門としています。野生イルカの行動を調査して博士号を頂き、その後、「ミニ地球」と称される自給自足をしながら閉鎖生活を送るプロジェクトに、居住者兼研究者として参加してきました。研究のテーマは、ヒト・動物の暮らしと環境の関係という幅広いものです。

## 学年暦・行事案内

### 平成19年度年間スケジュール

#### 前期

- 入学式  
4/4 (水)
- 新入生オリエンテーション  
4/5 (木)～4/6 (金)
- 2・3・4年次履修ガイダンス  
4/6 (金)
- 前期授業  
4/9 (月)～7/13 (金)
- 定期健康診断(1・2年次)(全学休講)  
5/15 (火)
- 定期健康診断(3・4年次)(全学休講)  
5/16 (水)
- 第1回就職ガイダンス(3年次)  
5/23 (水)～5/24 (木)
- 第2回学内企業合同説明会(4年次)  
6/20 (水)
- 開学記念日(全学休講)  
6/29 (金)
- 補講  
7/17 (火)～7/20 (金)
- 前期定期試験  
7/23 (月)～7/31 (火)
- 夏期休業  
8/1 (水)～9/20 (木)
- 前期追試験  
9/12 (水)～9/14 (金)

#### 後期

- 後期授業  
9/21 (金)～平成20年1/12 (土)
- 第3回学内企業合同説明会(4年次)  
9/19 (水)
- 第2回就職ガイダンス(3年次)  
10/10 (水)～10/11 (木)
- 大学祭(全学休講)  
11/2 (金)～11/5 (月)
- 第3回就職ガイダンス(3年次)  
12/12 (水)～12/13 (木)
- 冬期休業  
12/20 (木)～平成20年1/6 (日)
- 補講  
1/15 (火)～1/21 (月)
- 後期定期試験  
1/22 (火)～1/31 (木)
- 春期休業  
2/1 (金)～4/3 (水)
- 第1回学内企業合同説明会(3年次)  
2/8 (金)
- 後期追試験  
2/19 (火)～2/21 (木)
- 学位授与・卒業式  
3/21 (金)

## 新学部 医療科学部開設

### 医療科学部の紹介

医療科学部長 平林 茂

帝京科学大学医療科学部を御紹介いたします。

文部科学省からの認可を受け、本年4月に医療科学部リハビリテーション学科理学療法専攻が開部し、第1期生にあたる50名がこのたび入学いたしました。将来の理学療法士を目指して、現在、学生らは真剣に勉学に励んでおります。これにより、理工学部から学部名称を変更した生命環境学部と合わせて、本学は二つの学部で構成されることになりました。さらに今後は、こども学部と、医療科学部内にリハビリテーション学科作業療法専攻が新設される予定であり、医療、介護、福祉、教育の分野で本学が大きく発展していく基盤が整いつつあります。

さて、最近の我が国の現状を見ますと、高齢化社会がいつそう進むと同時に、肥満や糖尿病などの生活習慣病の概念が広まることにより、自らの健康を増進し生活の質を高めようとする国民の意識が年齢を問わずますます強まってきているように思われます。健康に関する本が数多く出版され、テレビでも健康を取りあげた番組の数が増え、それらがいずれも高視聴率をとっていることなどは、健康で質の高い生活をしつつ長生きをしたいと願う人々が実に多くいることを表す一端と言えましょう。心ならずも健康を害した人々が、健康を回復し、また社会へ復帰したいと強く願う気持ちも、その根本は同じです。このような現状においては、理学療法士はこれまでのように病気の回復過程のみに部分的に関与するというのではなく、病気の予防や健康増進といった広い分野にも積極的に参加する必要があるなど、その仕事は多岐にわたり重要さを増しています。病院、介護老人保健施設、福祉施設、スポーツセンターなど、理学療法士が必要とされる施設が今後いつそう増えると見込まれるにもかかわらず、残念ながら、現状はまだ需要に応えうる理学療法士の数が圧倒的に足りません。

本学では、実践力と行動力があり、医療、介護、福祉の現場でチームワークよく活躍できる理学療法士を社会へ送り出すことを目標に教育を行っています。当面は、卒業後直ちに全員が、国家資格である理学療法士の資格を取ることを第一の目標としています。このために、大学病院などで豊富な臨床経験を持ち、地域社会や在宅医療で実際にリハビリテーションを行っている理学療法士や、さまざまな経験を持ち、現在も常に最新の医療に接している医師たちが講義や実習を担当し、総合的に理学療法を学べるカリキュラムを組んでいます。実践の場に早く慣れ、問題意識と責任感を持つことができるようにと、1年目から臨床見学を行います。また、さまざまな環境での実習が行えるように、帝京大学の持つ3つの大学病院（板橋、市原、溝口）や、首都圏や山梨県内の近隣の病院、福祉施設との連携を密にしています。最近では、動物やロボット、自然や植物を利用したリハビリテーションも新しい分野として注目されつつあることから、本学の生命環境学部と協力して、動物介在教育や環境教育など、他の大学には見られない本学独自の教育も行う予定です。

本学は美しい自然に恵まれた場所にあり、勉学にスポーツにと青春を健康的に謳歌するには最適な環境の中にあります。パンフレットを御覧いただくか、または、一度キャンパスにいらして下さい。医療科学部は新しくできたばかりの学部ではありますが、たいへん将来性のある分野であることから、今後大きく発展させようと、現在、学生、教官、事務部門が一致協力して張り切っております。理学療法士の資格を取り医療現場で働きたいなど、医療、介護、福祉に興味のある方は、ぜひ御一緒にいかがでしょうか？ 関係者一同、皆様方を心からお待ちしております。



## 生命環境学部

### 新学科「生命科学科」

生命科学科設立準備委員会委員長 松岡 浩

平成20年4月から生命環境学部に「生命科学科」の設置を計画しています。「生命科学科」は、生命と健康を身体・精神の両面から科学的にとらえ、生命現象を解き明かし、さらに、高度な知識を持った医療技術者を育成することをポリシーとします。

生命科学科は、特色のある3コース（生命コース、健康コース、臨床工学コース）から構成されます。生命コースは、生物と化学に関する基本的な知識を身につけ、遺伝子から細胞、個体レベルまで生命現象を探求し活用のできる、バイオテクノロジー分野、食品分野、医療・健康分野の実践的スペシャリストを育てます。健康コースでは、連動するところとからだの健康に心の面から取り組み、私たちが持っている自然治癒力を引き出し、増進することをめざして教育・研究を進めます。その範囲は学内にとどまらず、山梨県内外の森林やセラピー基地においてセラピーの実習を行うとともに、学生自

身が自らの健康管理を行える環境を作り、健康資格取得に対応したカリキュラムを提供します。臨床工学コースは、高度医療に不可欠な臨床工学技士養成のためのコースです。

いずれのコースにおいても、科学に対する強い探究心を持ち、先端技術を身に付け、社会に貢献したいという意欲をもった人に向いています。新学科「生命科学科」にご期待ください。



### メディア情報システム学科の近況と今後

メディア情報システム学科長 永沼 充

昨年の大きな出来事は臨床工学コースの新設です。このコースは国家資格である臨床工学技士の受験資格を得るという明確な目的を持っています。この目的を実現するため、帝京医学技術専門学校専攻科と協定を結び、4年次の教育・実習を委託することとしました。本コースの学生は3年次までは上野原キャンパスで、4年次は本学学生の身分のまま幡ヶ谷の専門学校キャンパスで学びます。卒業時には国家試験受験資格と大学卒業資格の両方を得ることができます。

このように学科では受験生・在学生のニーズにタイムリーに答えるべく学外資源を積極的に活用しています。もう一つの例がバンダイビジュアル社による現代アニメーション論の開講です。開講済みのWebデザイン、コンピュータミュージックなどとともに、講師陣は実社会の第一線で活躍中のプロフェッショナルが勤めます。学生は最先端の生きた素材に触れることで大きな刺激を受けています。

平成20年度には情報工学コースを改組しバイオサイエンス学科とともに生命科学科健康コースを計画しています。コースにはロボットや映像を用いたセラピーなどこれまで少しずつ検討してきた分野の他に森林セラピーのような全く新しい分野を含んでいます。私たちは社会が変わるのにあわせ、その少し前を走りたいと努力しています。

### バイオサイエンス学科の目指すもの

バイオサイエンス学科長 近藤 矩朗

私たちの生活になくてはならない食料、エネルギーそして快適な環境は直接的、間接的に生物あるいは生物の機能に依存しています。また、医療は生物学の進歩とともに発展してきました。生物の機能を工学的に利用するバイオテクノロジーはいまでは様々な分野に浸透し、大きな成果を上げています。最近では、健康食品ブームにみられるように、我々の健康への関心が高まり、生物のもつ癒し効果を利用する試みも行われています。このように、生物科学（バイオサイエンス）は私たちの生活や産業に深く関わっているのです。

バイオサイエンス学科では、基本的な生物の機能とその利用法を正しく理解することにより、私たちの肉体的・精神的な健康の維持、増進、回復などに貢献することを目指した教育を行っています。生物に関する知識・情報は近年急速に増大し、その応用分野もますます拡大しています。本学科では、学生を動物や微生物を扱う「健康バイオコース」と植物を扱う「植物バイオコース」に分け、それぞれの分野の理解を深め、応用技術を身につけることを目指しています。卒業研究では学生を各担当教員の専門分野の研究に従事させ、実際の現場で知識や技術を活用できる実践的な人材を育てたいと考えています。

## □アニマルサイエンス学科の平成18年度における主な活動

アニマルサイエンス学科長 高橋 英司

アニマルサイエンス学科は、平成18年度からコンパニオンアニマルと野生動物を教育・研究対象とする「アニマルサイエンスコース」と人間生活に活用する動物を教育・研究対象とする「アニマルセラピーコース」の2コース制になりました。セラピーコース新設を記念して5月10日にフランク・R・アシオン博士（ユタ州立大学教授）によるシンポジウム「動物虐待と対人暴力」が本学で開催され、多数の学生が参加し、活発な質疑応答が行われました。博士はその後1ヶ月ほど滞在し、全国各地で講演会、シンポジウムを精力的にこなし、帰国されました。平成18年度に取り組まれた学科の主な活動は、年2回の障害者乗馬に関する講演会および障害者乗馬会、上野原市内の小学校および本学における動物介在教育、羽村市動物公園との連携による動物福祉啓蒙活動などで、毎回100名前後の学生がボランティアとして参加しました。また、サルの獣害対策としてのサル追い犬の育成と実践が引き続き仙台で取り組みられ、その内容が4月22日放映のNHK教育テレビのETV特集で紹介されました。施設・設備面では第2駐車場の裏手が平地され、イヌのトレーニング関連の実習が可能になりました。また、8月にはイヌ舎・ネコ舎が完成し、9月には動物運搬車が導入されました。これは馬の運搬だけではなく学外の活動に必要な機材の運搬にも多用されています。

平成19年度の取り組みとしては、セラピーコースの学生の2年進学に伴い、実習内容の整備が計画されています。また、待望の厩舎が建設されます。これにより、学内へ馬の導入が可能になり、学内における馬に関する実習・イベントが実施される予定です。



## □環境科学科の取り組み

環境科学科長 栗林 清

環境科学科では「地球環境の現状を正確に把握し、環境問題を解決するための科学技術と知識の習得」を教育理念に、実習、実験および講義とバランスの取れたカリキュラムを提供することを目指して来ました。このため、自然環境と生物および植物の関わりから環境を知り、野生生物の保護や保全、植物の力を利用した環境浄化の方法を学ぶ「自然環境コース」と地球温暖化や大気汚染、水汚染などの環境問題を化学の力により解決するための知識や技術を学ぶ「環境ケミストリーコース」の2コースを設けています。多様な分野を包含する地球環境および環境問題を理解し、解決するためには幅広い学問分野の知識を習得することが求められます。このような観点から特筆すべきカリキュラムとして、新入学生が環境科学にたいして興味や勉強意欲を喚起するための「野外研修」が用意されています。この研修では、環境省生物多様性センター、山梨県環境科学研究所、山梨県水産技術センター、八王子市戸吹清掃工場、八王子市北野下水処理場、神奈川県寒川浄水所など環境科学に関する現場で研修することにより、現在行われている最新の技術や研究について学ぶことが出来ます。また、12月には学部の1年生から大学院生までを対象とした「生物環境特別講義」を予定しております。この講義は地域社会にも開かれた講演会であり、毎年4名の研究者を迎え、2日間にわたり生物と環境に関する最新の研究やトピックスについての講演をお願いしております。学生にとっても最新の研究やトピックスに触れることが出来るので好評を博している講義の一つです。



山梨県環境科学研究所における研修風景

## □「こども学部こども学科」の誕生

こども学部設置準備委員会副委員長 田畑 満生

平成20年度の開設を目指して、「こども学部こども学科」の設置を計画しています。こども学科は、幼稚園や保育所等で活躍し、こども文化の創造に寄与できる人材の養成を目的としています。現在、教員も内定し、幼稚園教諭一種免許状と保育士の資格取得が可能なカリキュラムを準備しています。

ところで、かつて子どもたちの遊びの多くは、山・川・海、そして動植物といった自然が対象でした。しかし、時代が変わり、子どもを取り巻く環境や遊びの対象が室内のゲームやコンピューターへと移り変わってきています。いわば生命型から非生命型に大きく変容しているように思います。昨今、子どものいじめや自殺などのニュースを耳にしますが、命の温もりや命の大切さに対する感受性が失われつつあるのも、このような生命型から非生命型への移行と極端な偏重が関係しているのかもしれない。

本学では、すでに数年前からアニマルサイエンス学科の教員を中心として、近隣の小学校・幼稚園・保育所で動物を用いた教育研究を実践してきました。メディアサイエンス学科の教員もロボットを用いた教育研究活動を行ってきました。実施回数も100回を超え、現場の教育・保育関係者から高い評価を得ています。参加した院生・学生からも教育・保育関係の資格取得の要望が強く出されていました。このような背景のもとに新学科が計画されました。

こども学科では、生命型の「動物」と、先端科学で非生命型の「ロボット」の両者を活用した「介在教育・保育」を特色として幅広い教育研究を展開する予定です。将来、教育・保育分野で活躍したい意欲のある学生を期待しています

自然とともに学んだ優しさと温かさを  
存分に根づかせたように感じられました。

## 卒業式



平成19年3月18日の午後、武道館で帝京大学グループ校と共同の卒業式が華やかななかにも厳かに行なわれました。4年前の入学式では、同じ場所にただ緊張して座っているだけだった若者たちが、卒業式には凛とした面持ちで座っている姿に、大学生活の確かな実りを感じられました。

今回の卒業式には、スマップの草剪剛さんが、突然ステージに現われ、卒業のお祝いの言葉を述べるというサプライズ・プレゼントがありました。会場は驚きと歓声で沸き、雰囲気が一挙に華やぎました。

式典後は、学科ごとに卒業証書を一人ひとり手渡され、ゼミの教員と一緒に記念写真を撮る姿があちらこちらで見られました。自然に囲まれた上野原での4年間の大学生活は、学生たちに人を思いやる優しさと温かさを存分に根づかせたように感じられました。

肌寒い日だったとは言え、暖冬の今年は武道館の桜も咲き、春の到来とともに社会に巣立つ若者たちの眩しい姿を祝福しているようでした。



本学4学科総代の卒業証書授与風景



## 退任教員



谷口 文朗  
メディア情報システム学科・教授

15年前に産業界から経営工学科に着任して、4年生140名の卒業研究と経済・産業・企業・会社勤めなどの講義を担当しました。今後、「谷口ウエノハラ研究室」を開設して、本学のある上野原をもっと住みよい田園都市にするための研究を行います。



石田 宏一  
メディア情報システム学科・教授

大学での8年は、毎年、学科の改革で新しいことをしなければならず、あっという間に過ぎてしまいました。今後は科学の研究とは異なる分野での自分の可能性を確かめて見たいと思っています。昔々様には大変お世話になり、ありがとうございました。



瓜生 敏之  
環境科学科・教授

ハイテク・リサーチ・研究センター整備事業「未来材料研究センター」の創設、およびセンター長として本学の研究の発展に貢献されました。4月からは高知工科大学総合研究所に教授として着任され、ご活躍されています。

渡辺 記



難波 征太郎  
環境科学科・教授

本学における16年間は学生にも恵まれたおかげで、環境化学に関する教育・研究において、十分成果が上がったのではないかと感じています。4月からは早稲田大学理工学術院1年生の実験教育に携わっています。週3日の勤務で今までよりだいぶ楽になったので、70才まで務められたらと思っています。



亀井 聡  
メディア情報システム学科・講師

非常勤時代も含めて六年間、お世話になりました。研究室の窓に切り取られた眺めは、時間の流れを感じさせませんが、私にとっては本当にめぐるしい六年間でした。大学の今後の発展をお祈りしております。

# 就職状況

## 就職環境と本学の就職状況及び就職指導方針

就職事務室 井上 靖之

### 1) 就職環境：経済は回復するも厳選採用は続く

経済情勢においては大手企業を中心に景気回復軌道に乗り、また労働情勢においては団塊世代の大量退職が始まり、全般的に採用増加という望ましい就職環境に至っている。

しかしながら、地方や中小企業においてはまだまだ景気回復が浸透するには至らず、全般的に企業は厳選採用の姿勢を崩していない。

### 2) 本学の就職状況：この数年就職率は着実に上昇中

そのような就職環境の中で、本学のここ3年間の就職率は平成16年度91%、平成17年度93%、平成18年度94%と着実に伸びをつづけている（表1、図1）。平成16年度に最初の卒業生を輩出したアニマルサイエンス学科も平成16年度91%、平成17年度94%、平成18年度94%と高い就職率を続けている。

就職先を業種別にみると、図2～5の業種別就職比率（平成18年度）のようになり、これまでの製造業、卸・小売業や情報処理に加え動物関連や環境サービスなどを含むサービス業が増えつつある。

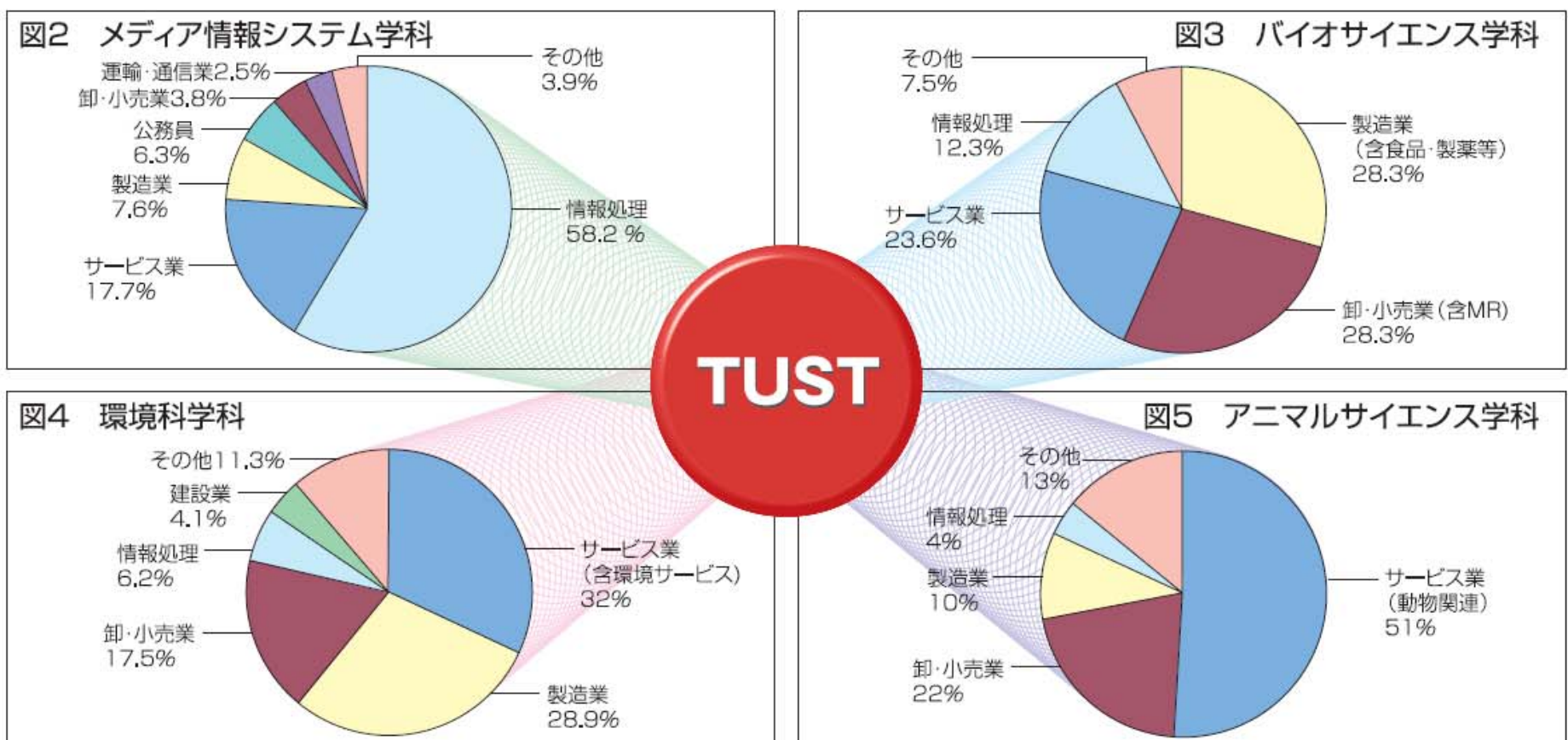
### 3) 就職指導の方針：学生一人ひとりにマンツーマンで対応する就職指導

全ての学生に対しさまざまな可能性を探るお手伝いをするのが就職室の仕事と考えています。自己分析を行うとともに社会や企業の動向を研究し、自分の進路を自ら見出していく進路相談、エントリーシートや履歴書の添削また面接指導などマンツーマンで対応します。

表1 最近3年の就職率の推移

	H16年度	H17年度	H18年度
メディア情報システム学科	92%	92%	92%
バイオサイエンス学科	90%	91%	96%
環境科学科	91%	94%	93%
アニマルサイエンス学科	91%	94%	94%
合計	91%	93%	94%

図1 近年の就職率の推移





## 卒業生の近況

【独立行政法人医薬基盤研究所勤務】

小澤 裕



バイオサイエンス学科2004年3月卒業

私は平成16年の春にバイオサイエンス学科を卒業と同時に、国立医薬品食品衛生研究所細胞バンクに入所し、平成17年2月には大阪にある独立行政法人医薬基盤研究所に細胞バンクが移転することになり、私も一緒に商人のまち大阪へ移動し研究に没頭しております。

私が勤務する細胞バンクとは、数多くの研究を通じて生み出された『培養細胞』を預かり、それを他の研究者に提供するという仕事をしているところです。もちろん提供するだけが仕事ではありません。お預かりした培養細胞が正しいものであるか、あるいはおかしな微生物に汚染されていないかなどを十分に確認し最良の状態で保存しておくことも大事な仕事です。私は細胞バンクでそのような業務の他に、研究者が必要とする細胞の付加情報を増やすための研究にも着手し、細胞資源としての質の向上に力を注いでおります。

私が細胞バンクに入所して4年目になりますが、今でも大学の研究室で教わったことは私を助けてくれます。すでに卒業研究の細かい内容はうろ覚えになってしまいましたが、細胞培養の手法、mRNAの扱いなど、実際に作業し慣れることで手に入れたコンタミネーションを防ぐための感覚は培養細胞を守ってくれています。そして、もうひとつ大学生活で手に入れたものは、情報を集め取捨選択する力です。講義や実習ではわからないことが沢山あり、私も必然的に図書室で本を読み、インターネットから情報を集め、多くの情報に触れました。しかし、その情報の中には間違いもあり、情報の選択には困ったことを覚えています。私は今、細胞に有用な情報を付加するための研究をしています。私が大学時代に得た情報を収集し、その中から正しいものを選ぶ力は、提供する側になっても情報の質の向上に必要なになります。今後の研究の中でどこまで通用するかわかりませんが、これからも日々精進し培養細胞とその情報をより良いものにするために努力していきます。

【北野精機株式会社勤務】

四家 淳一



メディアサイエンス学科2002年3月卒業  
環境マテリアル専攻2004年3月修了

私は2004年、本大学院 環境マテリアル専攻の修士課程を修了し、現在、北野精機株式会社に勤務しております。

学生時代は、日夜研究生活に没頭し、国内外の学会発表の場へ積極的に参加し、多くの他大学の方との情報交換や切磋琢磨し合える環境に居ました。配属研究室においても、個々が持っている実力以上の能力が育成できるとも充実した環境でした。

私の研究テーマは、現在では知らない人は殆ど居ない、青色発光ダイオードの基礎研究でした。とても大掛かりな装置で、発光素子を金属物（無機物）の成膜実験から物性評価を行ってきました。

私は、学生時代に経験した知識を生かせる会社として、研究職に進むよりも、研究サイドから一転し、正反対な立場である実験装置・部品を製作するメーカーに入社しました。北野精機は、日本で有数なものづくりの街である、東京都大田区に所在しております。その中で、私は営業部に所属し、営業技術、製品開発、新製品発表である展示会等を担当しております。研究者からの観点しか分からない事やお客様の立場が分かった上での提案営業が出来るのです。

入社1年目から有機電子デバイス開発チームを任せられました。学生時代、有機物とは逆の無機物の研究をしていた為、とても未知な領域での任務ですが、非常にやりがいのある職務となりました。現在は、研究にて養われた自分の強い武器である無機物に関する経験と知識を持ち、多くのお客様へ提案営業をしております。

入社4年目を迎えた今日、本学において学んだコミュニケーション能力や専門知識を生かし、弊社の更なる繁栄と成長を担っていくつもりです。

【環境保全株式会社勤務】

海野 さと子



環境マテリアル学科2003年3月卒業  
環境マテリアル専攻2005年3月修了

私は現在計量証明事業、作業環境測定をメインに行っている企業に勤務しております。当社は分析会社としては若い方で、会社も小規模の分類に入るかと思います。そのため、入社してまだ三年目になったばかりですが、重金属類及び農薬類の分析等、様々な分析項目を担当させて頂いています。使用機器も原子吸光光度計、ICP-AES、GC、HPLCなど、学生時代に扱った分析機器以外に多岐に渡る機器を使用し、忙しいながらも充実した日々を送っています。

学生時代は「植物から環境を見る」というテーマに興味を持ち、渡邊研に所属していました。学部時は植生と湧水、修士時はクロロフィルaと河川の水質をテーマに研究を行っており、フィールドワークと実験室での分析の繰り返しでした。実際に自分の目で現場を見てみたいと思いフィールドワークを行う研究テーマを選択しましたが、夏の暑い日あり、冬の寒い日あり、草が自分の背丈ほどある中にも行かなければデータが取れない事あり…と、ハードな事もありましたが、「自然と直に触れて研究を行っているんだ」と思うと楽しいものでした。

今社会人になって私自身が思うことは、就職活動中にいろんな企業を見て来て下さいということです。実際社会で働き出すと、他の企業の中を覗けるなんて機会はそうそうありません。学生の皆さんは就職活動が視点を広げるチャンスだと思って、どんどん企業を覗いて来て下さい。自分を活かせる場所が思いも寄らなかった企業で見つかるかもしれません。頑張ってください。

## 学生の活動・サークル紹介

### 学生プロジェクト LINK

アニマルサイエンス学科  
4年 荒井 雄大



近年、子どもたちの生きもの・自然離れが多く取り立たされるようになり、教育の現場でも「命の大切さ」をいかに伝えるかが大きなテーマとなっています。そこで、人と人、動物と人、環境と人をつなぐ懸け橋となり、多くの人に動物や自然の素晴らしさ、野生動物たちが抱える問題を、動物園という場を使って発信しようと集まったのが、私たち学生プロジェクトLINKです。

活動の中心は動物園での教育普及活動です。より効果的に、見て欲しい部分やメッセージを伝えるために、動物の体・行動・展示など、テーマや観察ポイントを絞ったワークシート企画「動物観察隊」を、多摩動物公園の職員の方々やメンバーと何度も打ち合わせを重ねて作成し、来園者向けに行ってきました。昨年度は毎回対象種を代えながら5回開催し、のべ1500人近いお客様に参加して頂きました。

その他にも、野生動物たちが抱える問題を紹介するオリジナル絵本やパネルを作成し、園での企画の際に展示を行ったり、学内外の有識者を招き、動物園での教育活動や展示動物の福祉に関する講演会など行ってきました。

このような学外での活動はとても社会勉強になりましたし、プログラムの作成をする中で、仲間と協力することの大切さや企画を組み立てていく難しさを学ぶことが出来ました。

今年度は、昨年度に作成したものをベースに改良を加えながら、引き続き来園者向けの企画を行うと共に、近隣の小学生を対象とした申し込み制の企画を作成し、より深く動物や環境について学んでもらえるプログラム造りに取り組んでいきたいと考えています。

### 上野原自然探検隊

アニマルサイエンス学科  
3年 中山 慶彦



私たちは、子どもたちの自然と環境に対する感性を培い、豊かな心を育てることを目的に、上野原市内の小学生と一緒に、自然体験を中心とした活動をしています。上野原自然探検隊は上野原市の公民館活動の一環で、事務局は上野原市の社会教育課にあります。毎年、市の広報により公募され、20名以上の小学生隊員が集まります。コーディネーターは富士・東部教育事務所の職員が務め、市内の小学校教員2名と帝京科学大学の学生20名程度がサポーターとして活動を行なっています。学生の役割は、近年自然離れしていると言われる子どもたちに、自然の中で遊ぶ楽しさを体験できるプログラムを考えたり、かけがえのない仲間との大切な時間を安全に過ごせるようサポートしたりすることです。

探検隊は一年間を通して活動をしています。月に一度、山や川、田んぼや野外キャンプなどの多くのフィールドで、五感をフルに使った体験を行い、「遊び」の中にも「学び」をとりこむことで、「楽しみ」ながら「学ぶ」ことを目指しています。

子どもたちは、活動を通して自然や環境への好奇心や関心を持ち、自ら興味深く探究するようになりました。そして、回を重ねるごとに自発的な行動、チームワーク、強い責任感、協調性などの面で成長した姿を見ることができました。

多くの子どもたちは次年度も継続して自然探検隊に参加しています。このことは、活動を通して自然への興味・関心が高まったことの証ではないかと考えています。

私達はこれからも上野原を舞台に、「遊び」や「楽しさ」を通して自然の魅力子どもたちに伝えていける、そんな活動をしていきたいと思っています。

## 科大祭

### 2006年度 第16回帝京科学大学大学祭

～去年の科大祭は一味違った～

第16回帝京科学大学大学祭実行委員  
第17回帝京科学大学大学祭実行委員長  
遠藤 賢嗣

私たちは帝京科学大学の大学祭を「科大祭」と呼んでいます。毎年11月の1週目の土日に行われており、昨年で第16回を迎えました。

昨年のテーマは「LOVE」。「愛」という意味もありますが、テニス用語で「0（ゼロ）」という意味もあり、心機一転、ゼロからスタートして新しい科大祭を作り上げようという意気込みで取り組んできました。私が実行委員に入ったのは科大祭が開催される1ヶ月前です。時間もなくバタバタした毎日でしたが、実行委員の頑張りや大学の先生方、学生、地域の皆様など、たくさんの方々の協力で例年とは一味違った新しい科大祭を開催することができました。

今回は科大祭を通して地域との交流を図ろうと考え、地域の幼稚園、小学校、中学校にステージ出演して頂いたり、地域の方々にもフリーマーケットなどで出店して頂いたりしました。

また、例年は大学内にある「いこいの広場」と体育館に2つのステージを設けていましたが、今年はさらにもう一箇所、学生駐車場にもステージを設置しました。このステージでは音楽バンドや軽音楽部、ストリートダンス部、吹奏楽部などに加え、地域の方も出演して下さり、大変な盛り上がりを見せました。

その盛り上がり負けず劣らず、その他にも多くのイベントが催されました。面白いイベントとして「ミスコン」、「カマコン」がありました。「ミスコン」はみなさんご存知の通りで、ミス帝京科学大を決めるというイベントです。たくさんの方に参加して頂き、イベントは大成功でした。「カマコン」は、簡単に言うと女装コンテストで、男子学生が女装をしてその美しさを競うというものです。こちらもミスコン同様、大盛況でした。

さらに、模擬店の数も昨年の倍ほどになりました。お祭りの醍醐味はやはり、たくさんのお店が並ぶことではないでしょうか。様々なサークルが模擬店を出店することによって科大祭に例年以上の活気が生まれました。

最後に科大祭のクライマックスとして後夜祭が開催されました。「ミス帝科」が点火式を行い、バンドの演奏や科大祭実行委員長の弾き語りなどが行なわれました。夜のお祭りも楽しく、皆がひとつになれた熱い後夜祭でした。

今年はさらに地域と密着し、若い人からお年寄りまで誰もが楽しめる、一味も二味も違った大学祭を作り上げていきたいと考えています。大勢の学生で皆様をお待ちしていますので、ぜひ今年の科大祭にお越しください。学生でない方々でもお店を出したり、ステージに参加して頂く事ができれば、もっと科大祭が盛り上がるはずですよ。みんなで大学祭を盛り上げていきましょう！



## 私のお気に入り S社の電子手帳

バイオサイエンス学科・教授 松岡 浩

私のスケジュール管理は、3年前に購入したS社のPalmベースの電子手帳ですべて済ませています。この電子手帳には、住所録機能や、静止画、動画表示機能もついているのですが、ほとんど使わず、スケジュール機能のみ使っています。ずばらな筆者は、かねてより個人的なスケジュール管理には苦勞しており、これが4代目の電子手帳でしたが、以前の機種は、画面が小さい、応答が遅い、入力が煩雑などの理由で長続きしませんでした。やっと巡り会った電子手帳というべきで、この電子手帳は今でも十分に満足して使い続けています。

ところが、その電子手帳を昨年7月1日に失くしてしまいました。スケジュールデータそのものはコンピュータにバックアップされていたので、急場は凌げていましたが、次第に、約束の日程を間違えるなどの支障が出てきました。そこで、新たに電子手帳を購入することを考えましたが、Palmベースでの日本語機はすでに生産中止となっています。ネットオークションで中古同型機を手に入れようとしたのですが、私が新品購入したときの値段よりもなんと20%以上も高いのです。他のOSベースの電子手帳も市販されてはいるのですが、私にとっては不要な機能が多すぎます。このようなことで、なかなか購入の決断がつかずにいたところ、10月11日、失くしたはずの電子手帳が思いがけず見つかりました。それ以降、電子手帳の便利さを再認識し、それを享受しています。しかし、私の記憶の一部は完全にこの電子手帳に依存していることを思い知らされ、今では、高くともいざというときのために同型の中古予備機を手に入れておくべきかと思悩んでいます。



## Favorite & Refined

### 私の趣味

図書課 朝倉 通好

「掌中の美」という言葉がありますが、私は手のひらに納まるような小さな作品を集めています。それは、刀装具というものです。武士の魂といわれた日本刀、本来は刀身と拵（鑢・目貫・縁頭・小柄・筭等）が揃っているべきものですが、明治9年の廃刀令と相俟って武士階級の困窮によりばらばらにされ市中に出回りそれぞれ個別に売買の対象となりました。元来、鑢は戦闘をする時、自分の手を守るもので戦国期にはよく鍛えられた鉄地で簡素なものが多いのですが、泰平の世になると鑢本来の目的が失われ華麗で絵画的なものが多くなり素材も金・銀・臙銀・赤銅・真鍮等いろいろな地金が使われ、画題も多種多様です。

最近作品を見ると、私は大体どの流派に属す作品か検討がつかず。この世界では本当にいい物は隠れている処まで細部に亘って手が加えられています。またそこが見所であり作品の価値を判断するのに役立ちます。作品には概ね銘があり、流派独特の切り方、個人の切り方の癖があるので、そういった掟を頭にいれておきます。刀剣でもそうですがかなり偽物があります。鑑定書さえも偽物といった例もあり、大名物(たいめいもの)はまず偽物と思わないと危ないものです。購入するときは、銘にとらわれず作品自体の出来を見ることです。作品によっては銘がなくてもそれと鑑定されるものが間々あります。今年購入したものを紹介してこの文を終わります。

ここに紹介するのは河野春明(1787~1857)の脇差鑢です。江戸時代の寛政から安政にかけて江戸で活躍し、法橋・法眼の地位を得た名工です。後半生に仙台・会津若松・新潟等の地方を遊歴し、その地で制作しています。この鑢は素銅(すあか)といわれる純粋の銅を地にして大黒天(赤銅)を嵌入し「益々盛可」と文字を刻んでいます。図柄としては普通ですがこの鑢は制作年代・制作依頼者・制作意図が明記されています。表に「天保二辛卯 陽月日」裏に「為佐竹規一主 風春明法眼(花押)」とあり、銘文からすると天保2年(1831)11月16日 甲子祭の為、佐竹氏の依頼により45歳の春明が制作したことがわかります。

このように春明の作品には年紀を切り添えたものが多く幕末の頹廢たいはい趣味を導入した酒脱な出来のものがみられるのです。余談になりますが、刀装具の世界に入ったことにより物を見る眼が非常に養われました。併せて私は年に30回ぐらい展覧会を見に行きます。これも眼を養うのに役立つと同時に心も癒されます。

一日何もかも忘れてすばらしい作品・絵画を見ることをお勧めします。



サイズ 縦7cm 横6.5cm 厚さ0.35cm

## 平成19年度 オープンキャンパス

### 1. 開催日

開催回	開催日
第1回	平成19年 7月 8日(日)
第2回	平成19年 8月 4日(土)
第3回	平成19年 8月25日(土)
第4回	平成19年 9月15日(土)
第5回	平成19年10月14日(日)



### 2. Pick Up! 模擬授業・体験学習

<b>生命環境学部 生命科学科(2008年4月開設計画中)『植物バイオテクノロジーを体験してみよう!』</b> 植物のバイオテクノロジーには、植物を育てる技術(組織培養)、観察する技術、植物に新しい機能を与える技術(分子生物学)など、様々なテクニックが必要です。この体験実習では、こうした植物を利用する様々なテクニックについて、実際に植物バイオテクに用いている実験植物や機材に触れながら学びます。体験実習を通して、植物バイオテクノロジーの世界を実際に体験してみませんか!!		
	<b>生命環境学部 アニマルサイエンス学科『イヌのしつけとトレーニング』</b> イヌの育成・訓練や社会化のために活躍中の講師陣による実習を行います。 ①しつけとトレーニングについて ・参加者によるしつけとトレーニングの体験 ・車椅子への馴致などのデモンストレーション ・トレーニングや競技を経験したイヌとの生活の楽しさ ・イヌを飼うと何がかわるか ②質疑応答 ・トレーニングの初歩 ・年齢と性格にあわせた実技講習 ・不幸なイヌをなくすには	
<b>医療科学部 リハビリテーション学科『体験!自分の運動能力を知ろう』</b> 病院等の医療・福祉の現場では、理学療法士は患者様を治療するにあたり、様々な評価を実施することでその患者様の身体機能を理解します。その評価の内容は、人の関節の動きや筋力、感覚など多岐にわたります。そこで、今回は、その理学療法で行う評価やテストの一部を実際に体験することで御自分の身体能力、特に運動能力について評価し、自身の体について振り返ってみましょう!そして、この機械に、是非、理学療法士の仕事の一部を知って下さい。		

## 平成20年度 入試日程

10月～12月は2007年、1月～3月は2008年です。

生命環境学部 (全学科)	面談入試 (AO入試)	面談の申込(無料)	第1回面談日(無料)自由選択制	第2回面談(無料)該当者のみ	出願許可	合格発表	入学手続期日	試験会場
		8/1(水)～8/23(木)	8/30(木)	9/20(木)	9/28(金)	10/11(木)	10/18(木)	本学
		8/1(水)～8/30(木)	9/ 6(木)					
		8/1(水)～9/ 5(水)	9/11(火)					
入試区分	出願期間	試験日		合格発表日	入学手続期日	試験会場		
推薦(前期)	10/18(木)～11/1(木)	11/10(土)、11(日) 試験日自由選択制		11/15(木)	11/22(木)	本学 東京		
推薦(後期)	11/26(月)～12/7(金)	12/16(日)		12/20(木)	12/27(木)	本学		
一般(前期)	1/7(月)～1/21(月)	1/30(水)、31(木) 試験日自由選択制(連続受験も可)		2/ 6(水)	2/13(水)	本学 東京 名古屋		
一般(中期)	2/1(金)～2/12(火)	2/19(火)		2/23(土)	2/29(金)	本学		
一般(後期)	2/25(月)～3/7(木)	3/14(金)		3/18(火)	3/25(火)	本学		
センター利用(前期)	1/ 7(月)～2/1(金)	本学独自の試験なし		2/14(木)	2/21(木)			
センター利用(後期)	2/5(火)～2/15(金)			2/28(木)	3/ 6(木)			

医療科学部 (※)	入試区分	出願期間	試験日		合格発表日	入学手続期日	試験会場	
	推薦(前期)	10/18(木)～11/1(木)	11/10(土)、11(日) 試験日自由選択制		11/15(木)	11/22(金)	本学 東京	
	一般(前期)	1/7(月)～1/21(月)	1/30(水)、31(木) 試験日自由選択制(連続受験も可)		2/ 6(水)	2/13(水)	本学 東京	
	一般(中期)	2/4(月)～2/12(火)	2/19(火)		2/23(土)	2/29(金)	本学	
	一般(後期)	2/25(月)～3/7(木)	3/14(金)		3/18(火)	3/25(火)	本学	
	センター利用(前期)	1/ 7(月)～2/1(金)	一次選考	本学独自の試験なし		2/14(木)	—	—
			二次選考(一次合格者のみ)	2/20(水)		2/23(土)	2/29(金)	本学
	センター利用(後期)	2/5(火)～2/15(金)	一次選考	本学独自の試験なし		2/28(木)	—	—
二次選考(一次合格者のみ)			3/ 3(月)		3/ 6(木)	3/12(水)	本学	

※ リハビリテーション学科理学療法専攻の日程

### 編集後記

本学に医療科学部が誕生しました。それに合わせたわけではありませんが、今号から大幅リニューアルしました。親しみの持てる紙面を目指しましたがいかがでしょうか。今後さらに内容を充実させていきたいと思っています。今後にご期待ください。

表紙は4月5日の新入生ガイダンスで、サークル紹介の準備に余念のない佐藤志帆さん(左)と小山菜摘さん(右)です。また卒業式・入学式の記事では、教務課の井腰みゆきさんに取材協力をして頂きました。 小林 記

発行人：帝京科学大学(TUST) 学長 沖永 莊八

〒409-0193 山梨県上野原市八ツ沢2525

TEL: 0554-63-4411(代表) FAX: 0554-63-4430 E-mail: tustnews@ntu.ac.jp

帝京科学大学ホームページ URL: http://www.ntu.ac.jp/

※ご意見、ご要望をお寄せ下さい。